工業っ子

No. 157
―発行日―
2017. 10. 27
―編集―
長崎工業高校新聞部
―発行―
長崎工業高校新聞部

第26回ロボットコンクール
機体に期待を込めて

マイコンカー個人 3位
マイコンカー九州大会出場
ロボット 3位

九月二十三日鹿町工業高校体育館にて第二十六回ロボットコンクールが開催されました。ロボット、マイコンカー両競技とも日ごろ培ってきた高い技術力で競技に臨みました。

難関コースを駆け抜けろ！マイコン

初心者向けのベーシックラス、上級者向けのアドバンスクラスがあるマイコンカーラリー部門。二部門全体で、計六十五台が参加しました。どちらもゴールまでのタイムを競います。

本校からは車体から自分で作り上げる『アドバンスクラス』に四台が出場。レースの途中で脱輪する機体も多く出る中、P3川井智哉君が三位入賞、D1長岡優太君が六位に入賞しました。

決勝リーグに出場した二人に感想を聞くと「決勝には行けなかったけど、初めての体験だったので九州大会までにタイムを速くしたい」（川井）「相手が速かった。来年は頑張りたい」（長岡）と答えてくれました。

また、九州大会出場決定を受けて顧問の小川先生に期待していることを伺うと「九州大会に向けてもう一回、一から良い機体を作り直す」と笑顔で語ってくれました。

なお九州大会にはP3川井智哉君、D1土師桜輝君、D1長岡優太君が出場します。良い結果を残すことを期待しています。

▶頼むぞ相棒！

二連覇逃す… 悔いの残る代表者達 ロボット

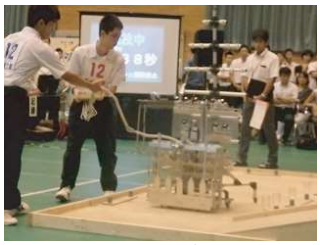
試合前の会場には真剣な表情で整備を行う生徒の姿があり「一か所たりともミスを逃さない」と鬼気迫るものがありました。

今回長工からは「八十。（やじゅうまる）」と「熊木 凛」の計二台のロボットが参加。

今年の課題は「さんフェア秋田2017」のイメージキャラクターのリモコン型ロボット「スギッチ」と自立型ロボット「んだッチ」が、秋田県の「秋田笹灯祭り」の「笹燈」に「きりたんぽ」や「稲穂」に見立てたペットボトルを取り付ける競技。制限時間三分間で行われ、一チーム三人で臨みます。競技方法は予選として全5チームによるタイムアタックが行われ、上位三チームによる決勝戦で順位を決定します。

結果は「八十。」が三位入賞。「熊木凛」は予選敗退。各ロボットの代表者にインタビューしました。橋口君は「悔しい。本来の力が出せず悔しい。焦らずに指示をするべきだった。どこでも力を出せるようにするべきだった。本当に申し訳ない。来年は頑張ってほしい」八木君は「ベストプレイとは言えなかった。完成させることに集中しすぎて各機構が疎かになった。来年は骨組みをがっちりしたものにしてほしい。そして、全国へ！」とそれぞれの思いを話してくれました。

今年は二連覇がかかっていたこともあり、プレッシャーが大きかったと思います。さらに今年の大会で使われたペットボトルは西日本、東日本仕様で分かれているということを会場で知ったロボット研究部の皆さんはとても混乱したと思います。しかし、そんな状況下でも優勝こそ叶わなかったものの、三位を獲得した「八十。」の皆さん、おめでとうございます。


▲少しのミスが命取り

今日の一枚 ～移り変わり～

先日まで暑い日々が続いていましたが、あっという間に寒くなりました。今回は十月十三日に行われた選手壮行式のときの写真です。整列した生徒の制服は、移行期間中にも関わらずほとんどが夏服。この翌週からは雨が続き、冬服姿をよく見かけるようになりました。皆さんは衣替えする時、何を基準にしていますか。友達に合わせる人が偶にいますが、体調を崩さないか不安です。あくまでも自分第一に行動しましょう。（渡部）

最優秀賞 自分の作品が選ばれて光栄 ポスター部門

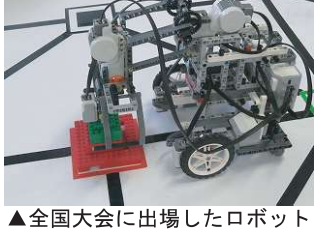
ロボットコンクールポスター部門においてC1渡辺恵さんが最優秀賞を受賞しました。受賞後、感想を聞くと「嬉しい。沢山の作品がある中、自分の作品が選ばれて光栄に思っている。これからの糧にして頑張りたい」と話してくれました。

◀ポスターと一緒に

臨機応変に対応するも… ロボット研究部レゴ班 全国大会出場

ロボット研究部レゴ班は八月六日に熊本の東海大学で行われた九州予選大会に三チームが出場し、見事chokoiCが二位に輝きました。九月十七日に東京のBumBで行われたWRO（ワールドロボットオリンピック）へD3倉崎烈琉君、平野良馬君、P3島尾暸君のチームが出場しました。

今年は台風の影響により現地で組み立てるはずだった車体をあらかじめ組立て持っていくという大幅なルール変更がありました。顧問の小川孝之先生は「九州大会だけでなく全国大会でも台風に邪魔されるとは」と無念の表情。


▲全国大会に出場したロボット

迎えた本番、会場が賑やかな中、選手たちはみな楽しんでいる感じだったそうです。サプライズルールによりスタート位置が変わりましたが、プログラミングを変更し柔軟に対応。しかし、結果は残念ながら入賞することはできませんでした。

大会終了後プログラミング担当の倉崎君は「全国大会ではうまくいかなかったが、全国出場を果たせるレベルまで成長できた」ロボット製作担当平野君は「自分が思いつかなかったような突飛なロボットが多く楽しかった」同じく島尾君は「結果が残せなくて悔しい」と話してくれました。

現在ロボット研究部レゴ班は三年生九人、一年生一人。三年生が引退すると活動の危機になってしまいます。絶賛部員募集中です。

青春日記

無事に終えた八十周年体育祭。長工パレードや組体操などとても素晴らしいものでした。本来ならパレードや組体操の感想を書くべきなのでしょうが、あえて私の体験を書こうと思います。

さて、私の一番の思い出はなんといっても「大障害走」。体育祭前、青春日記でネタ切れに陥っていた、という理由もあります。が、何より3年間この競技に出場し続けた先代の松尾先輩の意思を引き継ぎ、伝統としていくためにこの大障害走への出場を決意しました。できることならリベンジしたい。一方で、出ると決めたときから不安でした。予感的中、スキー板で四回、麻袋で推定六回以上の計十回以上転倒。

何か根拠のない自信があったのですがそう上手くはいきませんね。さらに今年から通称「大坂」は本部の指示があるまでお手伝い禁止。冷や汗が止まりませんでした。元々登れるか分からず、本部側への土下座も考えていましたが不幸中の幸い、「大坂」はなんとかクリア。その後の麻袋は疲れは後回しを披露、最後にはカントリーマームに弄ばれ盛大に転びました。それでも何とかゴールできました。皆さんの応援の力です。ありがとうございます。しかし、軽い気持ちで決意したことを今も少し悔やんでいます。

話は変わり、私事ですが「大学に合格しました」が「大学に書いてみるとたった九文字。この九文字に至るまでのドラマを語れば原稿用紙百枚…。お世話になった先生方、両親、青春日記、本当にありがとうございました。（塚根）

中二病を超えて

皆さんは「中二病」にどのようなイメージを持っていますか。私は「中二病はみっともない」とは思えません。なぜなら中二病の人たちは「今この世にある常識は間違っているのではないか」という疑問を抱いていると思うからです。

「ドンキホーテ」を知っていますか。大手ディスカウントストアではなく、スペインの古い小説のことです。この小説は騎士道物語の読み過ぎで現実と妄想の区別がつかなくなった主人公が自分を騎士だと思い込み、世を正すため旅に出るという内容です。その中で、風車を巨人だと思い込み突撃し、見事に吹き飛ばされる、というエピソードがあります。私は中二病に似ていると思いました。当初「狂人が面白可笑しい冒険を繰り広げる話」との評価を受けていたこの作品は、その後「人間誰しもが持つ、心の奥底にある人間の最も不思議な一面を表している」と、全く別の評価を受けます。

中二病の人によく「現実を見ろ」と言っているのを聞きますが、それは違います。中二病になりやすいのはその名の通り中学二年生頃から。将来が見え始め、多くの障害にぶつかるこの時期だからこそ思い悩み「現実を見ているから現実から逃げる」という矛盾を孕んでいます。中学二年生辺りの人も、同世代の人にも中二病の人はいると思います。中二病が悪いのではなく、いつまでも中二病の殻の中にいることが問題なのです。中二病は大人への第一歩として乗り越えるべき壁です。

中二病を脱却するために、まずは周りの友達や大人に相談しましょう。思わぬヒントが得られるかもしれません。人生において無駄なことはありません。失敗を恐れずどんどん挑戦し、成長できるはずです。（渡部）

働き方、歴史、戦争の爪痕…
ベトナムの文化に触れる
生徒海外研修 IN ベトナム

八月二十日から二十四日の五日間に行われたベトナム研修。全日制十三名、定時制二名、計十五名が参加しました。

研修に参加したのは全日制からは小谷美菜さん（C3）、竹村航さん（A3）、松屋雄竜さん・竹本愛美さん・時津優香さん（I3）、野原玲央さん・藤原直生さん・谷口みずほさん（M2）、井上奨さん（P2）、吉冨円さん（J2）、酒井優生さん（M1）、カーネモーラ晃さん（E1）。

定時制T3から渡邊菖太郎さん、前川雄飛さんの二人が参加し、計十五名。今回の研修についてアンケート形式でいくつか聞いてみました。

Qベトナム研修で最も印象に残ったこと

―バイクの多さ／物価が安い／日本語を話せる従業員さんがいたこと／戦争証跡博物館／長さ百mのクチトンネルを通ったこと。

日本との生活環境の違いや、戦争の歴史を現代に伝える施設が印象に残ったと答える人が多くいました。

Qインターンシップを通して学んだこと

―女性への制度がしっかりしていたこと／ベトナムならではの技術がみれたこと／ベトナムの人の勤勉さ

働き方の違いを感じた人が多かったようです。

Q美味しかった食べ物

―ハスの葉の炒飯／フォー／飲茶／揚げ春巻き／ジャスミン茶／ベトナムコーヒー／パン

多くの名前が挙げられました。特に、植民地時代の影響で食べられるようになったパンが美味しかったようです。

Q研修中恋しかったもの

―日本米／緑茶／うどん／味噌汁／ゲーム／自宅和食が恋しくなった人が多く、私も硬い米を食べたときは柔らかくて甘い日本米が恋しくなりました。

Q全体を通しての感想

―滅多にできる体験ではなかったので参加できて良かった。（小谷）

―沢山の人の協力によってスムーズに研修を行うことができて感謝しています。（竹村）

―とても良い経験になりました。（松屋）

―日本ではできない、文化の違いを体験できて良かった。（竹本）

―知識を深めることや、普段関わりのない他学年の生徒と交流することができました。後輩たちにもこのような素晴らしい体験をしてほしいと思います。（時津）

―貴重な体験を実際に目で見たり、五感を使って経験でき、良かったと思います。（野原）

―貴重な体験ができ、成長できました。（藤原）

―普段味わえない貴重な体験でした。また行きたいです。（谷口）

―これから成長していく様子を見て、頑張ろうと思いました。（井上）

―日本と違う環境によってできたベトナム独特の文化に触れられ、良かったと思います。（上杉）

―会社の制度がきちんとしていて働きやすそうでした。働き方の根本が全く違い新鮮でした。（吉冨）

―外国の文化や企業の良いところが沢山見れて良かったです。（酒井）

―ベトナムの文化に触れることができて楽しかったです。（カーネモーラ）

―金銭的な面が大変そうでした。（渡邊）

―五日間大勢の人と過ごして、集団行動の大変さを学びました。高校最後の夏休みに素敵な思い出ができました。（前川）

アンケートのご協力ありがとうございました。

新聞を通して、ベトナム研修で感じたことや見たことが伝わっていればと思います。

一、二年生の皆さん、是非来年参加してみてはどうでしょうか。

▲立派なサイゴン大教会

▲みんなで記念撮影

学問の奥深さ、復興の難しさを知る
総文祭 パート2

研究者の想いに触れる学問コース

学問コースの班に参加した私は加齢科学と方言学について学びました。

加齢科学では東北大学の加齢科学研究所を訪れました。「脳トレ」でお馴染みの川島隆太教授のスピーチを皮切りに施設を巡り、機械を使って脳や目線の動きをモニタに映しました。私は班長だったので、代表として実際に体験しました。自分が何か考えるごとに目の前のモニタに変化が起こるので、自分の脳の中身を見透かされているようで少しいたたまれませんでした。

方言学では、東北大学院文学研究科助教授の佐藤亜実さんが「若者の方言」というテーマのもと、若者の間で使われる「○○らへん」という言葉について語りました。「○○らへん」とは、場所、時間、人物を表します。例を挙げるなら、「バス停らへん」という感じです。佐藤さんは「地域差によるものだけでなく、年代差による方言も調査していきたい」と熱く語ってくださいました。

◀「脳トレ」の川島教授

初めての被災地
その現状
石巻コース

私が取材で訪れたのは、東日本大震災で甚大な被害に遭った町のひとつ、「石巻市」。かつての面影はなく、確認できるのは、家屋が「あった」という事実のみ。今まで画面越しに見てきたぶん、非常にリアルな体験でした。

津波に流された更地になった場所には、復興祈念公園の建設が予定されています。その計画と周辺の南浜・門脇地区の震災前の復元模型等がある「東日本メモリアル南浜つなぐ館」にも足を運びました。ここには、模型のほかに、震災後の様々なプロジェクトをまとめた映像や、津波によってボコボコになった看板などが展示されていました。

次に訪れたのは、かつて「東洋一」と言わしめた「石巻魚市場」。

６５４メートルあった水揚場は津波の影響で完全に倒壊しました。しかし、その約四年後、新たに建設された全長８８０メートルの閉鎖式水揚棟にて平成二十七年九月一日に供用開始されました。現在は問題なく漁を行っています。が、それでも問題があるそうで漁業誘致推進委員会委員長の須能邦雄さんによると「全国的には薄まってきているものの、放射能が心配という声は未だにある。石巻の魚は安全だ、と声をかけているが完全な理解には至っていない」と、悔しげな表情で語っていました。

今回の総文祭で初めて行った津波による「被災地」。被災された方に話を聞く機会が多くありましたが、皆さん「助け合い」と声をそろえて言います。そんな人達を見ていると、私も「助け合い」を行いたいと思う、今回はそんな三日間でした。（武石）

▶お疲れ様でした

文化祭準備編 てふてふ生！！！ パート③
～確認大切！～

※先輩失礼しました…。

シリーズ ロボコン道 ⑨

工業展に向けて

▼各々製作中…

四月から一致団結して取り組んできた大会も終了し、今は工業展・技能祭に向けての作業に取り掛かっています。一年生は着ぐるみ製作、二、三年生は新しいロボットの製作を行っており、大会前ほどではないですが忙しくなってきています。工業展・技能祭でより良いものが出せるように部員全員が協力して取り組んでいるので、来て頂いた方が楽しめるようなロボットになると思います。皆さんも工業展の際にぜひ来てください。（山口）

一年生な☆日々

私にとって三回目の一年生な日々。私はいつも学校の出来事を母に話すと「話のオチを作りなさい」と言われます。せめて記事だけでもオチを作れるように頑張ります。

最近の私のビッグイベントは長与の文化ホールで「千の風になって」で有名な秋川雅史さんと合唱団で一緒に歌ったことです。リハーサルで団員だけで歌ったとき、「どうして気をつけの姿勢で歌い続けていられるんですか？」と言われました。私達からすれば、気をつけの姿勢で歌うのは当たり前のこと。しかし、秋川さんは普段身体を揺らしたり、歩きながら歌を歌っているので、不思議に感じたそうです。

コンサートも無事に終わり、控室で御礼の言葉を即興で言うことになった私。本番前から名字を「秋山さん」と勘違いしていた私は、間違えないようにしようと思っていました。が、本人の前で「秋山さん」と言ってしまい、頭の中は真っ白。そんな私に、秋川さんは「大丈夫だよ」と笑顔で返してくださいました。サインも頂くことができ、貴重な体験をすることができました。

もうすぐ工業展。新聞部は今年も薔薇アートの展示をします。部員の努力が詰まった作品をぜひ見てください。（田中）

編集後記

十一月に入ろうとしている今、夏の催しについての記事があるということは、それほど長工生の夏は盛りだくさんだったということでしょう。現在校内は工業展一色ですが、次号は体育祭号を予定しています。今月中の発行目指して頑張ります。